



第71回日本皮膚科学会中部支部学術大会

The 71st Annual Meeting of the Central Division of JDA

イブニングセミナー3

# 皮膚バリアと免疫

座長

錦織 千佳子 先生(神戸大学)

鈴木 民夫 先生(山形大学)

演者

1. 石黒 和守 先生(石黒皮膚科クリニック)

「免疫力アップ保湿作戦  
—新型コロナウイルス感染症に打ち勝つために」

2. 峠岡 理沙 先生(京都府立医科大学)

「皮膚バリア機能低下がひきおこす  
免疫活性化機構」

日時

令和2年10月10日(土) 18:00~19:00

NOV

【共催】 第71回日本皮膚科学会中部支部学術大会  
常盤薬品工業株式会社 ノブ事業部

## ▶ 演者 1

# 「免疫力アップ保湿作戦 —新型コロナウイルス感染症に打ち勝つために」

石黒皮膚科クリニック 石黒 和守 先生

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、手洗いによる手荒れの悪化、マスクの着用による肌トラブルが増加している。手洗いはハッピーバースデーを2回歌うのが丁度良く、手洗いの後の保湿が重要で、夜は保湿効果のある入浴剤を入れて好きな歌を歌い免疫力をアップさせて就寝する。マスクには医療従事者が使うサージカルマスクの不織布で作られた物と所謂アベノマスクのように洗えるガーゼマスクがあるので、マスクの使い分けが重要である。今まで暑い時期にマスクを着用することがないためマスク皮膚炎が増加しており、ソーシャルディスタンスが保たれていればマスクを外し、熱中症を予防する。ニキビには洗顔が重要だが、洗顔前の手洗いが感染予防には大切となる。コロナと共に生活するために皮膚科医として患者さんの免疫力を上げる指導をしていきたいと考えており、当院における患者さんへの指導方法を紹介し参考にして貰えると幸いである。

## ▶ 演者 2

# 「皮膚バリア機能低下がひきおこす免疫活性化機構」

京都府立医科大学 峠岡 理沙 先生

皮膚のバリア機能は低下すると、外的刺激の影響を受けやすく、非特異的な刺激やアレルゲンなどにより炎症反応が惹起され、強い痒みを伴う湿疹病変が生じる。またフィラグリン遺伝子変異が喘息発症のリスクを高くすることが明らかにされ、その一方で気道上皮にはフィラグリンが存在しないことが報告されており、皮膚バリア機能障害が喘息発症のリスクを高くしている可能性が推察される。そして、近年、バリア機能が低下した皮膚を介した食物の感作により発症する食物アレルギーが報告されている。このように、皮膚バリア機能低下は、皮膚の免疫機構が活性化することにより、全身性のアレルギー疾患につながっていく可能性が考えられる。バリア機能が低下した皮膚ではTSLP、IL-33、IL-25などのサイトカインが表皮より放出され、また皮膚は外的刺激により組織傷害が生じるが、近年、傷害した細胞が放出する自己由来成分がToll様受容体を刺激することが明らかになり、自然免疫と獲得免疫が相互に作用しながら炎症反応を増強することが考えられる。本講演では、我々の臨床と研究の成果を中心に、皮膚バリア機能低下がひきおこす免疫活性化機構について概説する。